

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	資源評価調査委託事業 (国事業名：我が国周辺水域資源評価等推進委託事業)			
事業年度	昭和51年～	事業費 財 源	8,758 千円 (国) (一) (諸) 8,758	担当者 漁業資源課 梶達也・大河俊之・堀田敏弘
【背景・目的】 <p>我が国周辺における水産資源を持続的に利用していくため、国連海洋法条約批准にともなう TAC 制度（魚種ごとの総漁獲量による管理）や、水産基本法による漁業資源の管理等の施策を講ずるために必要な調査研究を行うことなどが規定された。</p> <p>水産資源の持続的利用は、国民への食料供給のほか漁家経営安定のためにも重要な課題であることから、本事業では主要魚種の資源評価や漁況予測の精度向上のための調査研究を行う。</p>				
【事業の概要】 <p>我が国周辺海域におけるいわし類・マアジ・さば類など主要魚種の資源評価を行うため、生物情報収集調査、標本船調査、漁場一斉調査、海洋観測調査、新規加入量調査、沿岸資源動向調査を実施する。</p> <p>得られた調査結果をもとに、関係機関が連携して主要魚種の資源評価や長期の漁海況予測を行い、その結果を公表する。</p> <p>ブリについては、遊泳位置や遊泳水温を記録する電子標識を用いた放流調査を行い、回遊経路と遊泳生態を明らかにする。</p>				
【全体計画とこれまでの成果】 <p>全体計画</p> <ol style="list-style-type: none">1 生物調査：主要魚種における卵稚仔の出現状況、年齢、成熟、漁獲量、回遊経路等の調査の実施2 海洋観測調査：調査船によるモニタリング調査の実施 <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none">1 関係機関との連携による水産資源の評価と広報2 いわし類、マアジ、さば類、キンメダイ、ブリ等について、資源の現状や生態、漁況予測を学習会を通して広報				
【25 年度計画】 <ol style="list-style-type: none">1 主要魚種の資源に関する調査 調査項目：対象魚種における卵稚仔の出現状況、年齢、成熟、漁獲量、回遊経路等 対象魚種：いわし類、マアジ、さば類、キンメダイ、ブリ、タチウオ、ヒラメ、ハモ等2 海洋観測調査 調査項目：調査船の定線調査による水温、塩分、流向と流速の観測 卵稚仔分布やプランクトン分布把握のためのネット調査3 調査結果の整理と広報 資源評価結果や長期漁況海況予報の広報				
【成果目標】 <p>漁業経営の安定化や水産施策に反映させるため、重要魚種の正確な資源動向の把握と漁況予測を行い、好・不漁の情報やその要因に関する情報を漁業者等関係者にタイムリーに提供する。</p>				
【期待される効果】 <ul style="list-style-type: none">・我が国周辺海域に生息するいわし類、マアジ、さば類について、資源の持続的利用が可能な TAC 数量の決定・冊子「高知県海域における漁海況と主要魚種の資源生態」に代表されるような、本県の水産資源に関する基礎知見の充実				